

平成27年

目黒区教育委員会

第44回定例会会議録

(平成27年12月8日開催)

第44回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年12月8日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	小村 恵子
	教育委員会委員長職務代理者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	木村 肇
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	佐伯 英徳
	教職員・教育活動課長	濱下 正樹
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

- 委員長 第44回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席職員は細田統括指導主事です。署名委員は中山委員です。  
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 議案第49号 幼稚園教育職員の勤勉手当に関する規則の一部を改正する規則)

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
特にないようですので、採決を行います。  
本件に賛成の委員は挙手願います。

(全員挙手)

- 委員長 全員賛成ですので、議案第49号は原案どおり可決します。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 教育財産(東山小学校)の用途廃止について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
○教育長 今回の解体工事とそれに付随する工事について、近隣住民への十分な説明と工事上の安全管理の徹底についてお願いします。  
○委員長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですので、この協議を了承します。  
次に、日程第3を議題とします。

(日程第3 平成28年度隣接学校希望入学制度申込結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
○委員 資料5ページの見方で、目黒中央中学校のところをもう一度説明をしてください。増と減についてどのように見るのですか。

○説明員 学校別で見やすいのは縦が見やすいので、右から2番目の目黒中央中学校を縦に見ていただきまして、まず左側の減が「出」、これが80人ということで二重四角で囲んでございます。どこの中学校に隣接希望を出したのかは左に見ていただいて東山中学校、ここに80人のうち40人、十中に2人、八中に27人、大鳥中に11人。七中、一中は隣接の対象ですがゼロということで、80人の内訳は4校になります。

次に右の欄の縦の増が「入」となります。これは縦にそれぞれ一中からの内訳になりますけれども、最終的な合計は86人の増ということで、その内訳は縦に一中からはゼロ、七中からは19人と続いて見ていただくこととなります。

その結果、対象人数は小学6年生の目黒中央中学校区の数314人ということで、80人と86人の差し引きはプラス6人、現段階で差し引き人数は320人ということでございますが、中学校については在籍率も含めて5割強ということでございますので、新1年生の数は国・私立への入学者がおりますので、ここから大分変わっていきます。このもととなる数字でございます。

○委員 ありがとうございます。というのは、上目黒小学校の減を何とか歯どめをかけたい、それは恐らく東山中学校にいずれ流れるルートを目黒中央中学校の魅力で引っ張っていただければ、そういう方面でも少しは歯どめはかかるのではないかとということで申し上げたのですが、目黒中央中学校がある程度頑張っていて、東山中学校ほどじゃないけれども頑張っていらっしゃるという結果と見ていいわけですね。

そうすると、上目黒小学校の減というのは、バランスよくいろいろな小学校に今のところ分散してしまっているということだと思います。人数が少ないことが一番のマイナスポイントと考えると、対策を何とか考えなくてはいけないと思うのですが、どうでしょうか。

○説明員 今のご質疑も含めて上目黒小学校を見ていただきまして、これは2ページに内訳がございまして、先ほどの目黒中央中学校と同様のご説明で申しますと、右から5番目に上目黒小学校を縦に見ていただくと、そのご指摘の減は38人の減、これの内訳は横に見ていただいて、五本木小学校が24人、烏森小学校が10人、油面小学校が4人、中目黒小学校は対象ですが今回隣接の受け入れは行っておりませんので、3校に対してでございます。

バランスということで申せば、近い学校について多くなっている傾向が見られますが、上目黒小学校では、この38人の減がこういった3校にまたがって減っている状況がございます。それについてはさまざまな取組みも含めてご説明をしてきたところがございますが、数字としての結果でいう38人の減により、今回、増が3人なので差し引きマイナス35人、これについては、実際、昨年の差し引きのマイナスよりも増えてしまった状況は数字として認識してございます。

一方で、地域のお子さんが71人いるという点は、昨年より20人以上増えているという別の面もあって、新1年生の数の確定はこれから推移を見なければなりません、隣接制度の結果ということでの差し引きで申せば、正直なところ差し引きのマイナスが増えている状況でございますので、これも含めてさまざまな取組みの結果、これは長年かかるものもあると思っておりますが、今年度の結果として認識は持って、今後についてさまざま検討していかなければいけないと考えています。

○委員

ただいまの委員の質疑に関連しますけれども、2ページと3ページで上目黒小学校についての分析をいただいたとお思いますけれども、これまで学校側の経営努力として就学前児童宅にいろいろな接触等を図りまして、いろいろ努力をしてきていただいております。

それから、教育委員会事務局としても、トイレの改修ですとか校庭のダスト舗装、あるいはユネスコスクールに向けた申請の手続等々、魅力づくりに向けて進めているところがございますけれども、実際に質疑があったように歯どめがかかっておらず、さらに拍車がかかっているということでもあります。むしろ28年度に着目するよりも、29年度に着目すべきだと思えます。

今、説明ありましたとおり、対象人数が今年はまだ71人だったということであって、これが仮に前年度と同じように50人だとすれば、ここでまた21人の数字を引いていかなきゃいけないという課題もあります。

それから、差し引き人数で言いますと、28年度は36人という数字は出ていますけれども、実際にここから国・私立の部分をこれから抜かなければいけないということです。資料3ページで平成27年度分を見ると23人という、50人から27人を引いた23人が差し引き人数になっていますけれども、実際ここから

国・私立を抜いた4月1日現在の数は確か15人だったと思います。その後、5月1日で16人になったんだと思いますけれども、したがって、分母がもともと50人だとするとどういう数字になるかということは、29年度に向けてこれは大きな課題となります。今までさまざまな対策を学校も教育委員会事務局も講じてきましたけれども、すぐには効果が出てないということは今回の結果からも明らかになりましたので、29年度に向けてどういう対策を講じていくのかという点について、どのようにお考えになっているのかということが1点と、それから、29年度の入学見込み予定者、把握が今現在できていれば、その人数を教えてくださいと思います。

○説明員

1点目、重ねての上目黒小学校の小規模化に対する課題認識でございますが、両委員ご指摘のとおりでございます。昨年のマイナスのところも含めて先ほど説明したとおりでございます。これまでさまざまな学校の魅力づくりは、今ご紹介いただきましたことも含め、あるいは上目黒小学校では逆に学校の規模を生かして一人一人の学力向上等も含めて、きめ細かに丁寧に対応しているところですが、にわかには効果が出ないという点はございまして、現段階でこの差し引きのマイナスが35人、法令上の小学校1年生、1クラス分という数字になっております。現段階ではまだ最終的な新1年生の数までは出ていませんので、隣接の結果の段階ではございますが、隣接の制度そのものを申せば、今のような結果も含めて、制度について改めて検証が必要な段階であるという認識でございます。

それから、2点目につきましては、先ほどのマイナスの差し引きが大体7名程度、昨年、国・私立に行かれる方がいました。そもそもの小学校の在籍率については今年度84パーセント弱でございますので、もともと71人に84パーセントを掛ければ30人という数字は出ますけれども、現段階での差し引きの36人から昨年程度の7人程度の国・私立が抜けるとすれば、そこは20人、現段階の推計は昨年度の入学率等でしかできませんけれども、そういった推計はしているところでございます。

○委員

すみません、質問の仕方が悪かったので。28年度の入学予定者数については推定ということなので、そこを聞いたつもりではなかったんですけれども、28年度に入学予定の対象者数というのは71人。これは住民基本台帳等で対象者の人数をはじき出し

ています。問題となるのは28年度の入学者数については、一定の推測があつて、誤差は多少あつたとしてもその前後かなと思ひますけれども、分母がもし50人程度の分母だとすると、これは大変危機的な状況を生むということを申し上げたいわけですし、仮に分母を50人と置くということは考えたくはないのですけれども、具体的な人数は把握できます。その後、転出入と1年の間にいろいろ増減ありますけれども、今現在で、29年度に入学予定となる対象者人数というのは把握されていると思ひますので、把握されていなければ、今の住民基本台帳から数をカウントすればいいだけの話なので、そこを押さえていただきたいと思ひます。

○委員

私が気になっておりますのは「入」の問題でありまして、大岡山小学校です。たしか、私が学校に伺つたときに校長先生から今年度のクラス編成ということでかなり苦勞したという話を伺いました。それが前年の結果ということであれば、これは27年度の減が11人、増が9人で、増減がマイナス2人というところから、28年度の予想が、減が2人で、増が22人と、プラス20になるわけです。

そうしますとかなり増えるという予想がされていまして、現在でも大岡山小学校の規模から言いますと、かなり負担だということを経験した校長先生が言っていましたので、この増えるということに対する対応というのは考えられておられるのですか。

○説明員

ただいまご指摘の点については、もともと隣接の枠を決めるときに一定の、先ほどご質疑もあつた新1年生の推計をした上で何人受け入れができるかということで、大岡山小学校については昨年の状況もありましたので、今年度35人から15人に20人減らして枠を決めたところでございます。

その段階では、物理的な校舎の中の教室数を勘案した上で、隣接で15人までは新1年生の数がとれて学級編成上可能だという数字での枠でございましたが、その後、学校説明会の実施、おっしゃるような転入等も含めた現段階での推移も含めて、これは私どもも学校に直接お邪魔をした上で、場合によって1教室さらに確保する必要があつた場合にどういった対応が可能かどうか、これについてはご指摘も踏まえて学校と相談しながら現在、対応については検討しているところでございます。

これまでもそういった事例が小・中学校で出ておりますので、次年度に向けては、現場をきちんと私どもも確認しながら、多様

な可能性については、これは学校施設計画課による工事も含めての対応の可能性はございますが、これについては現地を確認して進めているところでございます。

○委員

まず受け入れ人数というのは、新1年生の数を把握して、それと学校の教室の数を勘案して、各学校が独自に決めるという理解でよろしいのでしょうか。

もう1つは、例えば小学校の場合、下目黒と烏森は抽せんになっています。この抽せんは受け入れ人数まで多分絞った数の抽せんをするのかなと思うのですけれども、その場合は、まず私立や国公立に進む子で、それを下回る場合も出てくるのではないのでしょうか。例えば、抽せんをしなくて受け入れ人数、例えば今の大岡山小学校のように15人で一応差し引きが20人ということだと、この5人多い状態で辞退者がいなければ、受け入れ人数は15人と決まっていますが、この20人を5人多い状態で受け入れるという理解でよろしいのでしょうか。

○説明員

まず1点目、制度そのものは教育委員会としての要綱によって運営しているものでございまして、学校長の意見を聞いてございますが、委員のおっしゃったような数字を想定した上で、最終的には教育委員会として決定しているものでございます。学校長の説明会等も含めた見立てをきちんと入れまして、協議をした上で決めているものでございます。

その上で、大岡山小学校はご指摘のとおり、現段階は枠を超えた「入」になっているところでございますが、これについては制度上はあくまでも15人の設定なので、最終的には15人までしか隣接による入学はできないということでございます。抽せんに向けては超えている全校について、これまでの辞退率、あるいは国・私立、兄弟関係等については、別途指定校変更という可能性もございますので、そういったところも学校長と協議しながら、15人の枠に大岡山小学校はおさまる推計をした上で、辞退者が今後も出るであろうという推計をした上で抽せんを行っていない状況でございます。

○委員

今年度、大鳥中学校ができて初めての隣接になりますけれども、ほかの隣接校との何か変化などがありましたか。隣接を希望する人が、学年によっても母数が違うと思いますけれども、隣接希望の総数が増えただとか、もしくは大鳥中学校は目黒中央中学校に隣接の希望されていたりとか、逆に第七中学校と目黒中央中学校



が大鳥中学校に行っていますけれども、第七中学校がかなり減になっている。第八中学校が今年抽せんということでしたけれども、第八中学校は毎年抽せんされるのか、今年度抽せんになったのか、そういう昨年の状況と今年の状況で違いなどがあるのでしょうか。

○説明員      まず、大鳥中学校につきましては、おっしゃるとおり、新校が始まって初めての隣接でございますが、昨年度も4月の開校に向けては大鳥中学校ということで隣接の申し込みをしておりまして、具体的には資料5ページを見ていただくと、一番右の欄の大鳥中学校の上の欄が今年度、下の欄が昨年度の結果でございます。数字としての推移については、まずご指摘の「入」については、今年度は22人ですが、昨年度は19人ということで微増ですけれども増えてきています。結果の差し引きの増減も、今年度はマイナス14人ですが、昨年度はマイナス22人ということでしたので、大鳥中も開校に向けて取り組んできた中では微々たる数字かもしれませんが、回復をしているような状況を認識しているところでございます。

それから、第八中学校については、最近の抽せんはございませんで、抽せんはここ3年間の中では今年度だけでございます。

○委員長      その他ご質問等ございますか。

特にないようですので、この報告を受けました。

次に日程第4を議題とします。

(日程第4      平成27年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について(報告事項))

○説明員      (資料により説明)

○委員長      この件についてご質問等ございますか。

○委員      まず、基本的に目黒区の児童・生徒が得意とする分野は過去の傾向からかなり読み取れる部分があるので、そういうところはさらに伸ばしていき、弱い部分という傾向も昨年の傾向と大きくは変わっておりませんが、特に中学校の理科に関して言いますと、関心、意欲、態度については括弧内が26年度の数値ということなので、前年度は都平均よりも5.9パーセント上回っていた。それから、同じく理科の技能のところも、前年度は6.0パーセント上回っていましたがけれども、今回は東京都平均よりも残念ながら、その部分だけを取り出せば下回っているというこ

とになるわけです。全体平均としては、理科については都平均を上回っているわけですが、都平均よりも下回ったところについてはさらに補強をしていく必要があると思います。都の学力調査は中学校2年生ですが、区の学力調査は中学校1年も対象です。それに基づく個票により生徒の個別指導というのも行われているかと思いますが、そういったものが反映できなかった部分があるのかと思いますけれども、区の独自の学力調査と今回の東京都の調査との相関関係をどのように見ていくのかということが今後の課題ということだろうと思います。PDCAサイクルからいって、今後どういうアクションをしていくのかお伺いしたいと思います。

○説明員

委員ご指摘のとおり、全学年、中1、中2、中3と5教科のテストをし、その部分の経年比較をし、成果と課題を明らかにして、具体的な授業改善に生かしていくことが区の学力調査の主たる目的でございます。

東京都につきましては、中学校2年生の7月に実施したわけですが、実際、この理科の関心、意欲、態度と、それから技能について東京都よりも下回ったということは、実はかなりショックな結果であります。実際どんな問題が都と比べてやや平均が低かったかと申しますと、観察、実験の技能について、特に今年度はルーペを使って物を見るという部分、正しいルーペの見方を問う問題と、ガスバーナーが適切に操作できるかどうかについての問題で、この2つの正答率がかなり東京都よりも下回っておりました。

ルーペについては、生徒がみずからルーペの使い方を学ぶ機会を設けて、正しい使い方の習熟を図るということで、実際、ルーペを目から離して持って、それを物を近づけるのか、あるいはルーペを動かすのかというもので、正しくはルーペをまず目に近づけて持ち、物を前後に動かしながらピント合わせをしていく、つまりルーペではなくて、物を動かしてというところが基本的な使い方ですが、そういった、本当に基礎的な道具の使い方、果たしてそこまで細かく指導しているのかどうかという部分、ガスバーナーにしても、マッチに火をつけてから回して点火をする、それを先に回してしまってガスを出してからマッチをつけてしまうと危険ですので、そういった用具の基本的な使い方というか、習熟が若干不十分だったととらえております。

したがって、今後のフォローについては、各学校も各教科

部会の中で問題を分析し、具体的課題としてはっきり出ていますので、それを教育会、各学校の教科部会の中でしっかり検証して、直接、授業改善に生かしていただきたいと考えております。

あわせて、子どもたちには、この調査の個人票が配られて、各観点ごとの平均正答率が出されます。また、東京都ベーシックドリルがあります。これは各教科不十分だった部分について復習をするというドリルです。ドリルはポイントも記載されていますので、個人個人の復習をする機会としては非常に有効にとらえております。

○委員 率直な感想と具体的な分析をいただきましたが、思考力・判断力・表現力については、東京都平均と比べると6.6パーセント高いです。それから、知識・理解で言えば5.0パーセント高いわけで、全体平均としては資料右側に出ているように、理科に関して言えば53.1パーセントで東京都平均の49.3パーセントより高いわけで、理科だけを取り出して、これだけ見ると理科が目黒区の生徒は弱いのではないかと思いますので、誤解を招いてこれだけ独り歩きして、理科教育の充実ということに誤解を招いてはいけないわけで、資料の網掛けの部分だけが目立つ説明ではなく、説明の仕方だと思いますけれども、全体平均で言えば東京都全体の上位にあるんだということも、理科なら理科のところで課題はありますが得意な分野もあり、総体から言えば東京都全体の上位にあるということの説明はきちんとしなないといけないのかなと思います。

○委員 理科の分析はよくわかったんですけれども、英語の思考・判断・表現は昨年はかなり都の平均を上回っていましたが、今年は下回ってしまったことについてどう分析されているのでしょうか。

○説明員 ご指摘の英語の思考・判断・表現の部分でございますが、これも実際どんな問題がほかに比べて思うように正解が得られなかったかを見ますと、ある1つの疑問文に対して2つの文で答えるという問題でありました。例として、「Are you a junior high school student?」、「あなたは中学生ですか」という質問に対して、「Yes I am」に加えて、さらにもう1つ、自分は何年生であるとか、学校の名前を答えるとか、そういう形で2つの文を答えなければいけないという、かなりハイレベルな問題でありました。ただ、その2文は「Yes I am」、「I'm a junior high school student」、最初の文書と同じものを使ってしまうと、そ

れでは正解は得られずに、聞かれたこととはまた違った形で答えるという問題でありました。課題としては、「Do you like animals?」というのに対して、「Yes I do, I like a cat」と、そういう形で答えるという、非常に思考、判断等が、単なる文法であるとか、そういった部分ではなくて、かなり応用的な部分を使う問題が特にこの中では非常に悪かったという点で、さらに外国語表現の能力ということについて、今後、英語教育について会話重視の部分はさることながら、英語を使って考えていく、答えていくというこれからの国際社会に求められる力がまさにこの問題で問われたととらえておりますので、各学校に対しては、この問題についてしっかり分析をして、授業の中で生かしていくよう指導してまいります。

○委員 今の説明を聞いている範囲で、こういった数字の違いは生徒個人個人の能力の違いではなく、目黒区の全体のレベルは平均的に高いところにあるけれども、個々の問題に当たったときにたまたま低い結果が出たと感じています。

そういう意味からしますと、これは個人個人の生徒の能力の問題なのか、教え方の問題なのか、教科書の違いによる問題なのかというところが判断しかねます。

先ほど答弁された、結果がショックであったということのほうですが私は気になるところでありまして、教え方の問題だったのか、個人個人の能力はそんなに低くないのにたまたま教え方が悪かったからこういう結果になったのかという分析が必要だと思えます。

非常に難しいとは思いますが、この東京都の結果は、ペーパーテストなどの結果から出てきた値ですが、本当にそれが能力を表現しているのかというところが考えづらいところでありまして、先生の教え方の問題か、教科書の違いによる問題なのか、個人個人の能力が少し東京都の平均よりも下回っているのかの分析を深めていただけるとよいと思えます。

○委員長 その他ご質問等ございますか。

特にないようですので、この報告を受けました。

次に日程第5を議題とします。

(日程第5 千葉県勝浦市との津波等発生時における緊急一時避難施設の協力に関する協定書締結について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
特にないようですので、この報告を受けました。  
次に日程第6を議題とします。

(日程第6 教育委員会名義の使用承認状況について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
特にないようですので、この報告を受けました。  
次に日程第7を議題とします。

(日程第7 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の結果について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)  
○委員長 この件についてご質問等ございますか。  
○委員 安全でいいことですが、ここ1年間でほかの機関ですとか放射性物質検査で高い数値が出たという報告はありますか。  
○説明員 本報告は、文教・子ども委員会にも報告を定例的にしているところがございますが、その中には保育園等の報告も出てございます。ご指摘の今年1年間に関しては、全て不検出という測定結果の報告をされております。  
○委員長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですので、この報告を受けました。  
以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時42分閉会)